

竹陵書言

一貫不斷

私は、芸術においても学問においても、天才ということにはあまり関心をもち得ないものです。山陽先生さんようも申されました、「自分を天才なりという人はまだ我を知らざるもの、よく刻苦するといふものこそ真に我を知るものだ」と。世の中には、よく刻苦勉勵する人のみが、終に、芸術最高の妙境に入り、幽玄絶妙の奥堂に至るものです。しかもその努力が、一時的で、間歇的けつであつてはならぬのです。一貫不斷、たゆまず、うまず、前進また前進、倒れては起き、まろびてはまた立つて、進んで止まぬもののみが、所期の目標に達することができなのです。

（丸山敏雄著『書道芸術』七十一頁）

「天才」と聞くと、生まれながらに天賦の才を授かった、自分とは縁遠い存在と考えてしまいがちです。

しかし、頼山陽らいさんようの言葉や、エジソンの「天才とは一%のひらめきと九十九%の努力である」を思い起す人も多いのではないでしょうか。もし努力を積み重ねることで高みに到達できるのであれば、その道は私たちにも開かれています。

敏雄は、「努力がすべてである」「努力する人だけが天才になれる。努力とは『反復』である。反復は一切を生む、一切を成就させる」「一日一回」、これは上達の秘法である」とも述べています。

秋津書道では言うまでもなく「練

習は必ず一日に一度」を大切にしています。皆さんはいかがでしょうか。毎日筆を持つとうと思つていても続かないことがあります。しかし、また始めればよいのです。

まさに七転び八起きです。赤ん坊が何度転んでもあきらめないからこそ、やがて立ち、歩けるようになるのと同じです。

そして、毎日筆を持つためには、習慣にすることが一番です。自分に都合の良い時間に書くことを習慣にすれば、毎日歯を磨いているように、気負わなくとも毎日筆を持てるようになります。

せっかく書道の道を志した私たちです。目標の達成に向けて、一歩一歩努力していきましょう。